

2022. 10. 2 (日) 使徒4:23~31

<説教>

使徒ペテロとヨハネの二人は、エルサレムの神殿で裁判にかけられ、今後だれにもイエスの名によって語ってはならない、イエスの名によって語ることも教えることもいっさいしてはならないとの命令を受けました。これは「無学な普通の人」たちからの命令ではありません。祭司長たち、長老たち、律法学者たちからなるユダヤ人の最高法院（議会、サンヘドリン）の命令です。逆らえば必ず不利益を被ることになる、ユダヤ人の最高権力者たちからの命令です。普通なら恐れ入り、ぺこぺこして「はいわかりました」と返事をするような場面でした。

しかしペテロとヨハネははっきりと答えました。「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従うほうが、神の御前に正しいかどうか、判断してください。私たちは、自分たちが見たことや聞いたことを話さないわけにはいきません。」と(19,20)。イエスの名によって人々に語り教えること、十字架の死と復活のイエス・キリストを人々に宣べ伝え、イエスを信じる信仰と神への立ち返り（悔い改め）を人々に勧めること、福音宣教が「神に従う」ことに他なりません。イエスの名によって語り教えることを、福音宣教をいっさいしてはならないというのはキリスト教会の働きの制限どころではありません。働きの全面禁止命令でした。それに対してペテロとヨハネが「それは困った。さあどうしようか。」と二人で相談して答えた様子が見えません。そんな命令に聞き従うかどうかなど議論の余地もないことでした。たとえ何度命じられ、また脅されようとも、当然の答えがただ一つあるのみでした。そのことを二人は相談などせず、確認しあっただけに違いありません。

〈さて、釈放された二人は仲間のところに行き、祭司長たちや長老たちが彼らに言ったことを残らず報告し〉ました(23)。そして〈これを聞いた人々〉(24)―「キリスト教会」と言っていいでしょーも二人と同じように、祭司長たちや長老たちの言ったことに恐れ入ったり動揺したりはしませんでした。「さあ困った。反権力、反最高法院と誤解されないように何とか方策を考えよう。」「ここはひとつ面従腹背（めんじゅうふくはい。表面は服従するように見せかけて、内心では反抗すること）で行こう。それが試練のときの逃れの道、神の助け、知恵というものだ。」などという話しはいっさいしませんでした。二人の〈報告〉(23)には〈祭司長たちや長老たちが彼らに言ったこと〉だけでなく、それに対する二人の答えも含まれていたと思います。二人が福音宣教を禁じられ脅されても、今や復活のイエスへの信仰、神への従順を告白したという報告を、二人にそうさせてくださったイエス、父なる神、そして聖霊への感謝と喜びをもって聞いたに違いありません。それゆえ人々は〈神に向かって声をあげた〉つまり神に賛美と祈りを捧げたのです(24b-30)。

それでここでも詩篇から引用しています(25, 26)。そこ（詩2:1, 2）には主なる神とその神から油注がれた者（つまりユダヤ人の王）に、異邦人もユダヤ人も（つまりすべての人間が、そして特に地上の王たち、権力者たちが）逆らう様子が歌われています。この〈主に油注がれた者〉とはダビデ王だけでなく、その後の王のこと、そして「ダビデの子」なるメシヤ、キリストのことまで言っている（メシヤ預言）と信じられていました。ペテロとヨハネの話しを聞いた人々（もちろん使徒たちがその中心でしたが）は、このメシヤ預言を聖霊によってダビデの口を通してお語りになった神(25, 26)が、そのメシヤ預言を御子イエスによって成就なされたのだ(27, 28)と神を賛美したのです。

〈天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造られた方〉はお造りになったものその後もずっと完全に支配しておられます。もちろん人間をも、ユダヤ人だろうが異邦人だろうが、また彼らが反逆しようがしまいが関係なく、支配しておられます。そして神の全き善き御意思（みこころ）が実現するようにお用いになるのです。〈ヘロデ（・アンテパス）とポンテオ・ピラト〉、また〈異邦人たちやイスラエルの民〉は〈騒ぎ立ち〉（馬が怒って鼻息も荒くいなく様子）、イエスに逆らってイエスを十字架につけて殺して安心したが、それは「むなしい企み」で終わりました。なぜなら全世界の支配者、全知全能なる神は、キリスト・イエスの反逆者たちには思いもよらない最善のみこころを持っておられ、反逆者たちが神の〈御手とご計画〉によって、起こるように前もって定められていたことすべてを行〈う〉ことを許可なさったからです。反逆者たちはただ自分たちの不信仰と罪、イエスへの怒りや憎しみからイエスを十字架につけて殺しました（その責任はすべて彼ら自身に帰せられます）。しかし実はイエスが神のご計画に完全にお従いになって私たちの罪のために十字架で死なれたのでした。使徒ペテロが何度も言っているように、そのイエスを神は復活させ、イエスを信じる者たちの罪を赦し、罪故の神の永遠の刑罰を免れさせ、イエスを信じる者たちの救い主、王とするという〈ご計画〉を神は成就なさったのです。そうやって神と神が油を注がれた神の聖なるしもベイエスは罪と死と悪魔に完全に勝利なさいました。使徒たちが引用した詩篇2篇3節以降には、反逆者たちに対する主と主に油注がれた者（キリスト）の勝利が歌われ、更には反逆者たちにそのキリストを通して神に立ち返るようにとの呼びかけが歌われています。もちろん使徒たちはそのことも知っていました。そんなキリスト・イエスによる救いを成就してくださった義と愛の神を使徒たちは賛美したのです。

そして使徒たちは、神の聖なるしもベイエスに起こったこと（つまり詩篇2篇の出来事）は当然、やはり神の〈しもべ〉（28）である自分たち（教会）にも起こると知りました。だから祈りは、「主よ、今後、彼らが私たちを脅かさないようにしてください。」ではありませんでした。まず「彼らの脅かしをご覧になってください。」でした。最善の〈御手とご計画〉をお持ちの神が見てくださればそれでもう十分だということです。そして「（あなたの）しもべたちにあなたのみことばを大胆に語らせてください。また、御手を伸ばし、あなたの聖なるしもベイエスの名によって、癒やしとするしと不思議を行わせてください。」でした。つまり「彼らの脅かしに屈することなく、彼らの命令に従うことなく、イエスの名によって教会の内外の人々に語り教えることをますます大胆にさせてください。」「聖霊によってしもべたちの口を通してあなたが、イエスがお語りください。」ということです。使徒たち、またキリストの教会は、そして私たちキリスト者は、地上の王や権力者や世間の〈しもべ〉では断じてありません。主なる神だけが「信仰の従順」をもって私たちが従い仕える「主」です。

私たちが生活の全領域で神に従い、〈すべてを主イエスの名において行〉う（コロサイ3:17）ときに、（色々な意味での）この世の権力者ににらまれ、脅され、神のみこころでないことを命じられることが必ずあります。しかしそこにも神の〈御手〉があり、神は〈ご覧になって〉くださっています。そんなとき（に限らずいつもどこでも）〈イエスの名によって〉、〈神のことばを大胆に語〉る（31）ことができるように、いつも〈聖霊に満たされ〉（31）ているように、神に賛美と祈りを捧げ続けていきましょう。

- 4:23 さて、釈放された二人は仲間のところに行き、祭司長たちや長老たちが彼らに言ったことを残らず報告した。
- 4:24 これを聞いた人々は心を一つにして、神に向かって声をあげた。「主よ。あなたは天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造られた方です。
- 4:25 あなたは聖霊によって、あなたのしもべであり私たちの父であるダビデの口を通して、こう言われました。『なぜ、異邦人たちは騒ぎ立ち、もろもろの国民はむなしいことを企むのか。
- 4:26 地の王たちは立ち構え、君主たちは相ともに集まるのか、主と、主に油注がれた者に対して。』
- 4:27 事実、ヘロデとポンティオ・ピラトは、異邦人たちやイスラエルの民とともに、あなたが油を注がれた、あなたの聖なるしもベイエスに逆らってこの都に集まり、
- 4:28 あなたの御手とご計画によって、起こるように前もって定められていたことすべてを行いました。
- 4:29 主よ。今、彼らの脅かしをご覧になって、しもべたちにあなたのみことばを大胆に語らせてください。
- 4:30 また、御手を伸ばし、あなたの聖なるしもベイエスの名によって、癒やしとするしと不思議を行わせてください。」
- 4:31 彼らが祈り終わると、集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語り出した。

